

用語解説

【0～9、A～Z】

○3D

Three Dimensions の略で、三次元のこと。写真測量やレーザースキャンなどによる計測で、地形や複雑な構造物などを計測し、3次元的に表示することが簡単にできるようになってきている。

○AI

Artificial Intelligence の略。人工知能とも訳され、学習・推論・判断といった人間の知能をもつ機能を備えたコンピュータシステムのこと。

○BCP

Business Continuity Plan の略。企業等が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと。

○CASE

C (Connected : コネクテッド)、A (Autonomous : 自動運転)、S (Shared & Service : シェアリング/サービス)、E (Electric : 電動化) の頭文字をとった造語で、自動車の今後の技術革新を表すもの。

○DX

Digital Transformation (デジタルトランスフォーメーション) の略称。「IT の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念のこと。

○EBPM

Evidence Based Policy Making の略。政策の企画について、政策目的を明確化したうえで合理的根拠に基づき行うこと。

○EV

Electric Vehicle の略。電気自動車のことで、車載バッテリーに充電を行い、モーターを駆動する。

○FCV

Fuel Cell Vehicle (燃料電池自動車) の略。水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーでモーターを駆動する。

OGI

Green Innovation の略。カーボンニュートラルの実現に向けて、環境と経済の双方を単にトレードオフの関係としてみるのではなく環境と経済の持続的な好循環を創出し、経済社会全体の変革を促す取組。

OGTFS

General Transit Feed Specification の略。経路検索サービスや地図サービスへの情報提供を目的として策定された世界標準の公共交通データフォーマットのこと。

OICT

Information and Communication Technology の略。コンピュータや通信ネットワークなど情報処理や通信に関連する技術、産業、サービス等の総称。

OMaaS

Mobility as a Service の略。地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。

OPDCA

Plan（計画）、Do（実行）、Check（測定・評価）、Action（対策・改善）の仮説・検証型プロセスを循環させ、マネジメントの品質を高めようという概念のこと。

OPPP 方式

Public Private Partnership の略。公共サービスの提供に民間が参画する手法を幅広く捉えた概念で、民間資本や民間のノウハウを活用し、効率化や公共サービスの向上を目指すもの。

OPTPS

Public Transportation Priority System（公共車両優先システム）の略。路上の車両感知器とバスに搭載している専用装置とが通信を行うことにより、バス等の公共車両に対して信号機を優先的に制御し、青信号の延長や赤信号の短縮を実施するシステムのこと。

OSDGs

「持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals の略」で、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のこと。

【あ行】

○アクティビティ

「活動：Activity」という意味の英単語。

○ウォークアブル

「歩く」を意味する「walk」と「できる」の「able」を組み合わせた言葉で、「歩きやすい」「歩きたくなる」「歩くのが楽しい」といった語感から、車中心だった都市から、歩くことが中心の都市へシフトする「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指す施策キーワード。

○遠隔型の非接触カード

距離が1 m程度でも認識可能なICカード。

○オープンデータ

誰もがインターネット等を通じて容易に利用（加工、編集、再配布等）できるようにしたデータ。

【か行】

○グリーンインフラ

社会におけるさまざまな課題の解決に向け、自然環境が有する機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、道路や河川などの社会資本整備を行う手法のこと。

○グリーンスローモビリティ

時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称のこと。

○交通モード

鉄道、バス、タクシーをはじめとする、各交通手段のこと。

○コミュニティ交通

鉄道や路線バス等の公共交通が不便な地域で、自治体や地域が主体となって運行する公共交通のこと。

【さ行】

○災害ハザード

災害発生時に被災の恐れが大きいことを意味する。「災害ハザードエリア」とは、被災の恐れが大きい区域を表す。

○サブスクリプション型サービス

交通分野では定額制で一定期間乗り放題の運賃体系のことで、従来の鉄道やバスの定期もこれに該当する。

○シェアサイクル

相互利用可能な複数のサイクルポートが設置された、自転車の利用システムのこと。

○シェアリング

物・サービス・場所などを、さまざまな人と共有する社会的仕組みのこと。交通分野では、カーシェアリング、シェアサイクルなどがこれに該当する。

○市街化調整区域

原則、市街化を抑制すべき区域のこと。

住宅地や大規模商業施設の整備などの開発行為は原則として行わず、道路や公園などの都市施設の整備も原則として行われず新たに建築物を建てることを極力抑える区域であるが、一定規模までの農林水産関連施設の建築等は可能である。都市計画区域を「市街化区域」と「市街化調整区域」に区分することを「区域区分」又は「線引き」という。

○市街地開発事業

都市施設の整備が市街地の骨格を線的、点的に整備することを目的としているのに対し、市街地開発事業は、一定のエリアを区切って、そのエリア内で公共施設の整備と宅地の開発を総合的な計画に基づいて一体的に行うもの。

○次世代モビリティ

電動キックボードなどの小型車両や自動運転技術を搭載した車両のこと。

○人口集中地区

人口が集中している地区のことで、人口密度が1km²あたり4,000人以上の地区が互いに隣接し、それらの隣接した地域の人口の合計が5,000人以上となる地区のこと。

【た行】

○地域公共交通計画

「地域公共交通の活性化および再生に関する法律」に基づき、地域の移動ニーズを踏まえ、地域が自ら交通をデザインするために、望ましい公共交通サービスの姿を明らかにするとともに、持続可能なサービスの提供を確保するために必要な方針を定める、公共交通のマスタープランとなる計画のこと。

○デマンド交通

時刻表による定時運行ではなく、自宅や指定の場所から目的地までの利用者の要望（デマンド）に合わせて運行する交通手段のこと。

○テレワーク

情報通信技術（ICT=Information and Communication Technology）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。

○都市アセット

官民の既存ストックのうち、利活用が都市生活の質や都市活動の利便性向上に資するもの。

○都市再生整備計画

地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図るもの。

【な行】

○二地域居住

都市部と地方部に2つの拠点をもち、定期的に地方部で過ごしたり仕事をしたりする新しいライフスタイルの1つのこと。

○ニューノーマル

New（新しいこと）とNormal（正常、標準、常態）を合わせた造語で、新型コロナウイルスの感染症など、社会に大きな変化が起り、変化が起こる以前とは同じ姿に戻ることができず、新たな常識が定着すること。

【は行】

○パークアンドライド

自動車と鉄道等の公共交通を組み合わせ、市街地などの交通需要の抑制と利用者の利便性を向上する仕組みのこと。具体的には、自宅から最寄り駅などまで自転車で行って、そこに駐車（Park）し、鉄道などの公共交通に乗り換えて（Ride）目的地まで行くもの。

○パーソントリップ調査

「どのような人が」「どのような目的で」「どこからどこへ」「どのような交通手段で」移動したかなど、「人の平日1日の動き」を調べる調査のこと。本県では、過去に前橋・高崎都市圏で1977年と1993年に、両毛都市圏で1989年に実施した。また、直近では、県全域と栃木県の一部（足利市）を含む地域で2015～2016年に実施した。

○バスロケーションシステム

運行中の路線バスの位置情報を、バス停やスマートフォン等で閲覧や検索ができるシステムのこと。

○非線引き都市計画区域

都市計画の区域区分（市街化区域、市街化調整区域）を行っていない区域。

○ビッグデータ

ICTの進展により生成・収集・蓄積等が可能・容易になる多種多量のデータのこと。

○フィーダー系交通

バスの停留所、鉄軌道駅、海港及び空港において、地域間交通ネットワークと接続する系統のこと。

○プラットフォーム

サービスやシステム、ソフトウェアを提供・カスタマイズ・運営するために必要な共通の土台（基盤）となる標準環境のこと。

【ま行】

○ミーティングポイント型

デマンド型交通において、バス停のように決められた乗降場所を設置するタイプの運行方式のこと。

○モビリティハブ

鉄道、バス、シェアサイクル、パーソナルモビリティ、カーシェアリングなど多様な交通モードの乗り換え拠点のこと。

○モビリティ・マネジメント

一般の人々や組織、地域を対象に、過度な自動車利用から公共交通や自転車などを適度に使う方向に、自発的な変化を促す取組のこと。公共交通を利用することのメリット・必要性・役割などを説明するための印刷物や時刻表の配付、子どもやお年寄りを対象としたバスの乗り方教室の実施などのコミュニケーション手法を中心とした取組などがある。

【ら行】

○ラストワンマイル

モノやサービス、人の移動などに関する最終拠点（例：鉄道駅やバス停等）から末端消費者や最終目的地（例：自宅や会社等）を結ぶ区間のこと。これとは、逆に、自宅や会社等から鉄道駅やバス停等を結ぶ区間をファーストワンマイルと言う。

○立地適正化計画

都市住民の生活を支えるサービスが維持された持続可能な都市の実現に向けて、居住機能や都市機能の立地誘導を通じて、都市構造のコンパクト化を図るための計画のこと。

【わ行】

○ワーケーション

英語の Work（仕事）と Vacation（休暇）の造語。リゾート地や地方部など、普段の職場とは異なる場所で働きながら休暇取得する、あるいは休暇と併用し、旅先で業務を組み合わせる滞在のこと。